

## 文化会創造冊子『文令栄華』発行

学友会文化会本部は、対面授業が再開された6月21日から7月下旬まで、文化会創造冊子『文令栄華』を学生センター1階に陳列した。この冊子は、文化会本部が学友会総務部長室事務課の協力のもと、コロナ禍で制限された活動の成果を発表するために発行した。内容は、文化会の各所属団体の紹介のほか、自由な記述でそれぞれの活動を表現している。

冊子名の『文令栄華』は「文明開化」「令和」「栄華」を組み合わせた造語。制作に携わった第57期文化会本部企画局長の齋藤美幸さん(律3年)は「コロナ禍の影響で新入生の勧誘活動が思い通りにいかず、学友会団体の入会率が低くなっている。この冊子を見て、少しでも文化会に興味を持ってもらえたら嬉しい」とコメントしている。

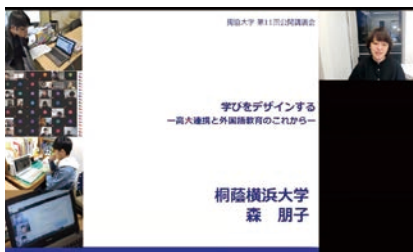


## 外国語教育研究所 第11回公開講演会を開催

外国語教育研究所は、6月25日に桐蔭横浜大学副学長・教育研究開発機構教授の森朋子氏を招き、「学びをデザインする—高大連携と外国語教育のこれから」というテーマで第11回公開講演会をオンラインにて開催した。

森氏は、これからの大学カリキュラムで育成すべき学力を、知識・技能などの「見える学力」、思考力・判断力など「見えない学力」、人間性や学びに向かう力など「見えない学力」の3層に分けて示し、「深い学び」とは何か、そこにどう導くべきかを、理論と教育実践の往還に根ざした学習理論の視点から解説した。

平日の夜にもかかわらず、日本各地の研究者、教員、学生のほか、会社員など一般の方々を含め158名の参加があった。質疑応答には多くの質問が寄せられ、充実した講演会となった。



## 地域総合研究所公開講演会開催

地域総合研究所は、7月29日にLondon School of Economics(ロンドン大学)名誉教授のChristine Whitehead(クリスティン・ホワイトヘッド)氏を招き、「ポストコロナの住宅、都市と関連政策」というテーマで2021年度公開講演会をオンラインにて開催した。

ホワイトヘッド氏は、新型コロナウイルス感染症拡大により、人の生活や働き方に変化が起きており、住宅や都市の在り方も同じく影響を受けているとの示唆に加え、ポストコロナにおける住宅、土地、都市の関連政策について今後の展望をまじえた解説を行った。本講演会は、海外の研究者を講師に招き、同時通訳を介してのオンライン講演会という点で、本研究所としてはもちろんのこと、本学としても初めての試みとなった。

当日は、研究者・教員・学生はもとより、中央省庁・地方自治体・企業・シンクタンク等から国内外合わせて約230名の参加があった。



## 2021年度9月卒業式を挙行政

9月20日、2021年度9月卒業式・学位記授与式を天野貞祐記念館大講堂で挙行政し、107名の卒業生が旅立ちの日を迎えた。当日は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、出席者を卒業生と教職員のみに限定して実施した。

山路朝彦学長は式辞で「常に世界の動きとともに足もとにも目を向け、人生を自ら積極的に設計し、逞しく生き抜いて下さい。獨協大学を巣立っていく全ての卒業生の皆さんが、これから社会に出て、幸福で、健康な人生を歩んでいくことを祈念しています」と述べた。

また、卒業生を代表して加藤慎吾さん(言4年)は「快適な学びの場と、数々の興味深い授業を提供して下さった獨協大学の先生方、職員及び関係者の皆様には、感謝の念が尽きません。多くの出会いと思い出は、私たちの生涯の宝物です。」と謝辞を述べた。

■学 士 独13名、英18名、仏9名、交10名、言22名、済15名、  
営11名、環5名、律1名、国関法1名、総2名 計107名



## 新型コロナウイルスワクチン 職域接種終了

8月30日より開始した新型コロナウイルスワクチン職域接種が10月8日で終了した。獨協医科大学(栃木県壬生町)及び獨協医科大学埼玉医療センター(埼玉県越谷市)協力のもと、本学の学生、教職員とその家族及び委託事業者等学内勤務者と獨協中学高校、獨協埼玉中学高校の高校2、3年生や獨協学園の関係者等、合計で約4,000名の希望者が接種を受けた。

接種を受けた学生は、「緊急事態宣言が延長されるなど感染拡大がおさまらない中、大学でワクチン接種ができて少し安心しました。マスク着用など感染防止対策は、ワクチン接種後も必要だと思いますが、対面授業がやりやすくなると期待しています」と述べた。

本学では今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を十分に取しながら、学生の学修機会等の確保に努める。

